説明資料

現在の社会で危機を認知する方法

→歴史の教訓を学習する事である。(月尾・東大名誉教授)

保元・平治の乱

①1156年(保元1)　**保元の乱**

(勝者)	(敗者)
後白河天皇	崇徳上皇
藤原忠通	藤原頼長
平清盛	平忠正
源義朝	源為義、源為朝

保元の乱は、皇室・貴族の内紛に武士の戦闘力を利用した戦乱であった。父子・兄弟などが、敵味方に分かれて戦った日本史上で凄惨な戦いの一つである。

★ポイント　：　勝敗を決したのは、武士の力(武力)

②1159年(平治1)　**平治の乱**

(勝者)	(敗者)
藤原通憲(信西)	藤原信頼
平清盛	源義朝、源頼朝

平治の乱は、皇室・貴族の政争に源平の武士団の対立抗争がからまって起こった戦乱である。
平清盛が源氏を鎮圧・一掃し、「武門の棟梁」としての地位を確保した。

★ポイント　：　政治の実権が武士へ移った。

【皇室系譜】

71
後三条—**白河72**—堀河73—**鳥羽74**—崇徳75
　　後白河77—以仁王
　　近衛76—二条78—六条79
　　高倉80—安徳81

★**太字**:院政

平氏政権

武家政治は、農村に勢力を持つ武士を結集し、組織化しなければ達成できない。
これが、短期間に達成できないものであった為、貴族政治から武家政治への過渡的なものとして平氏政権が成立した。

【平清盛】

①1167年　武士としてはじめて太政大臣
②1177年　鹿ケ谷の陰謀(平氏打倒)
　→後白河近臣の藤原成親、西光、俊寛を捕縛
③1179年　後白河院を幽閉し院政を停止し、平氏による独裁体制を構築
　→律令官制の高位高官を一族で独占、所領　30余国・500余荘、平家にあらずんば人にあらず
④1180年　安徳天皇即位(母:建礼門院徳子、清盛の娘)、外祖父として平氏の地位を確立

●日宋貿易(父の平忠盛以降)大輪田泊(兵庫)修築、音戸の瀬戸(広島)改修

入:　宋銭、書籍　　出　:　金　硫黄　刀剣

【治承・寿永の乱】

⑤1180年(治承4)　源頼政挙兵(以仁王の令旨)
⑥1180年　福原京へ遷都(半年後に復都)
⑦1180年　源頼朝、源義仲(木曽義仲)挙兵、富士川の戦い
⑧1181年　平清盛没
⑨1183年(寿永2)　倶利伽羅峠の戦い
⑩1183年　平宗盛ら安徳天皇を奉じて都落ち・西走、源義仲入京
⑪1184年(寿永3)　一の谷の戦い
⑫1185年(文治1)　屋島の戦い、壇ノ浦の戦い、平氏滅亡

平氏政権は、最初の武家政権として出発したが、武士の組織化が十分でなく、あまりに早く政権に近ずいた事で一族の立身出世と栄華に目を奪われた。
又、貴族政治の権謀術数の中に巻き込まれ、武士階級の離反を招き、足元から権勢が崩される結果となった。

(平家物語の祇園精舎冒頭)

沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす
奢れる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし
猛き者も遂には滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ